

デジタル・ヒューマニティーズ：データ中心時代の人文情報学

データの分析・統合・可視化から 新たな発見を目指す人文学研究

どんな研究？

- ・ 人文学にコンピュータを活用
- ・ 複雑なデータを整理・蓄積
- ・ データを分析・統合・可視化
- ・ 未知の事実（仮説）を発見

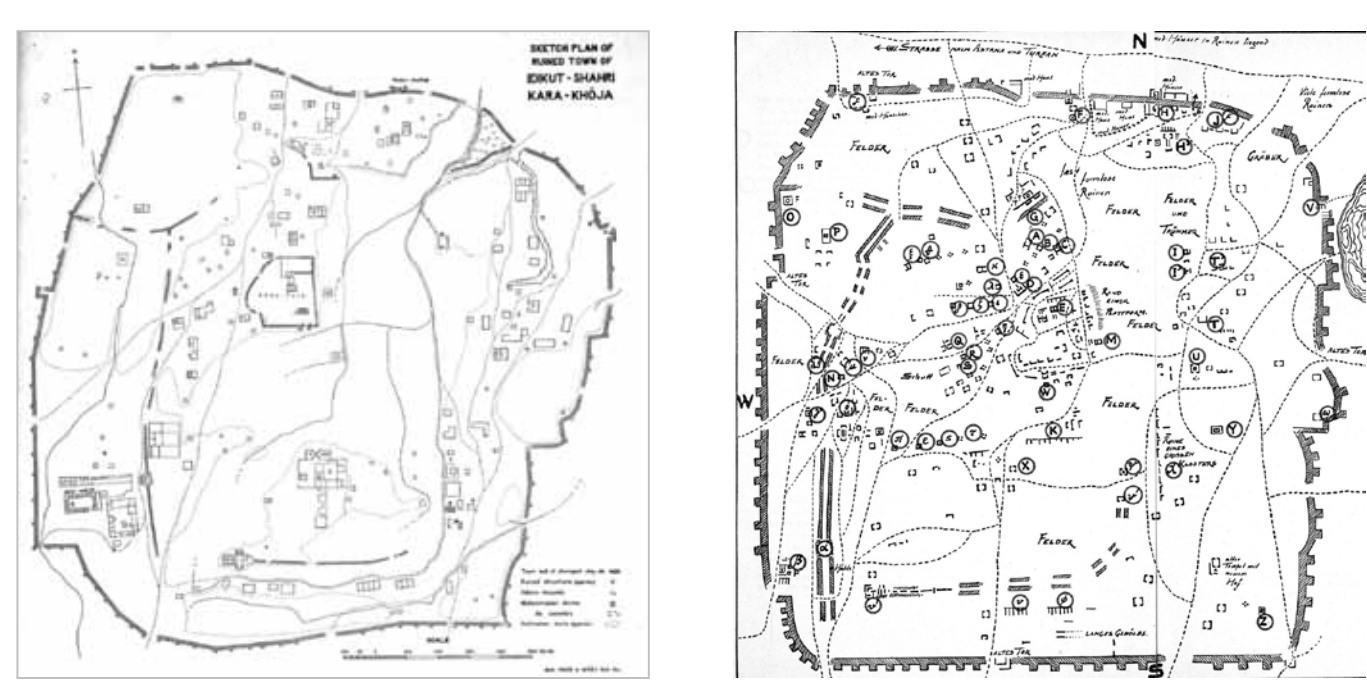
何がわかる？

- ・ ゆがんだ古地図を読み解く
- ・ 消えた遺跡を再発見する
- ・ 人々が参加するミュージアム
- ・ スマホアプリで古写真を探索

デジタル・シルクロード・プロジェクト <http://dsr.nii.ac.jp/>

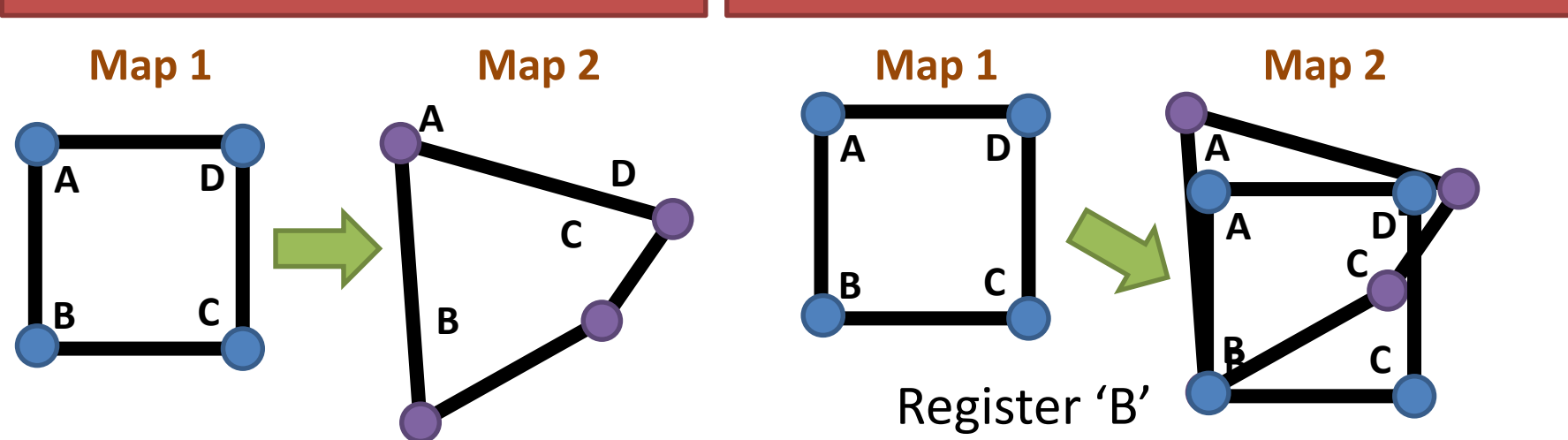
情報学者と人文学者の協働：デジタル技術に基づく新しい視点の発見

古地図の位置合わせと解釈



不正確な古地図の適切な解釈を支援するため、位置合わせや検索のためのデジタルツールを構築。

Geometric Correction Interactive Georeferencing



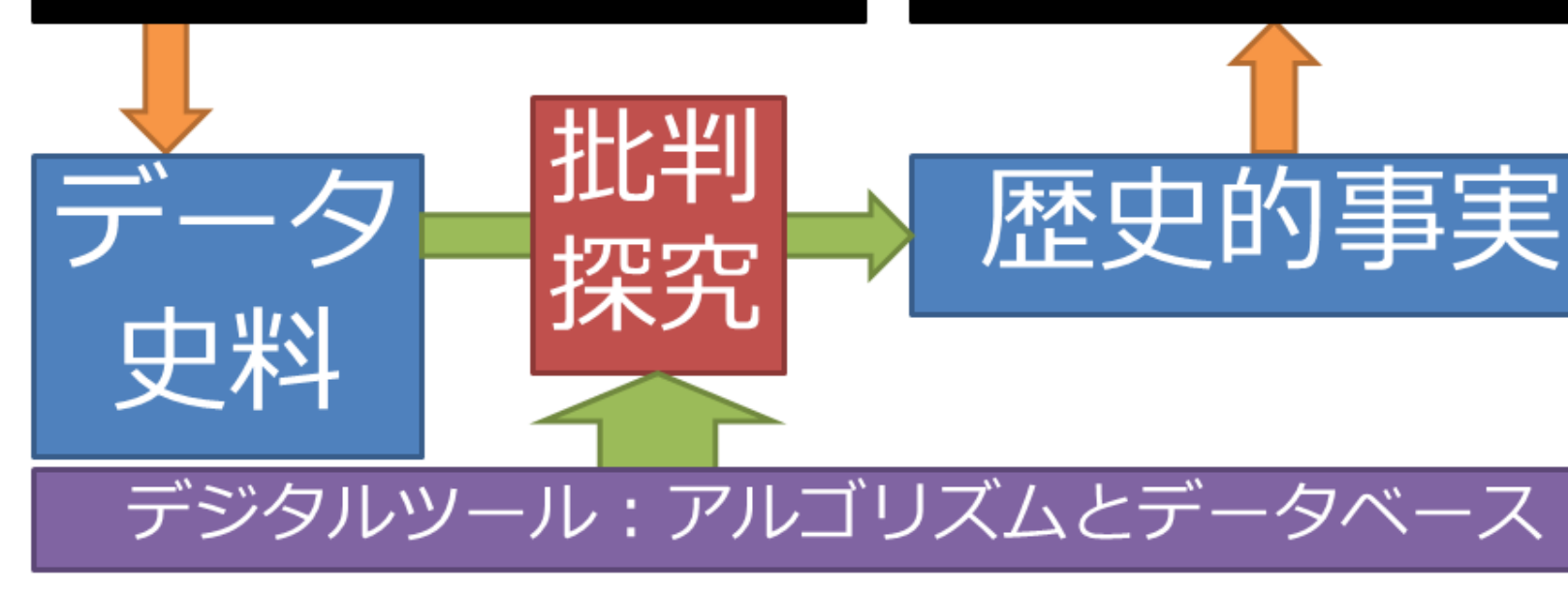
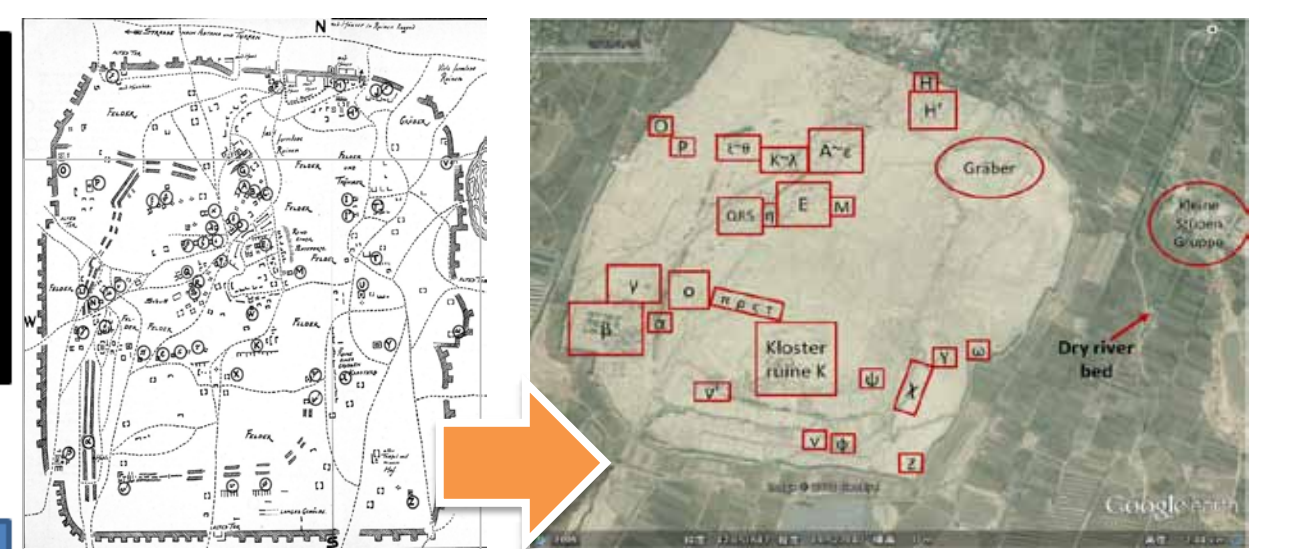
名寄せ：名前の類似性 ⇔ 場寄せ：場所の類似性

データ史料批判

データの問題点を批判的に評価した上で、価値ある事実の断片をつなぎ合わせていく方法論が必要。

数値データ
空間データ（地図）
画像データ（写真）

歴史研究における空間的・視覚的証拠の蓄積



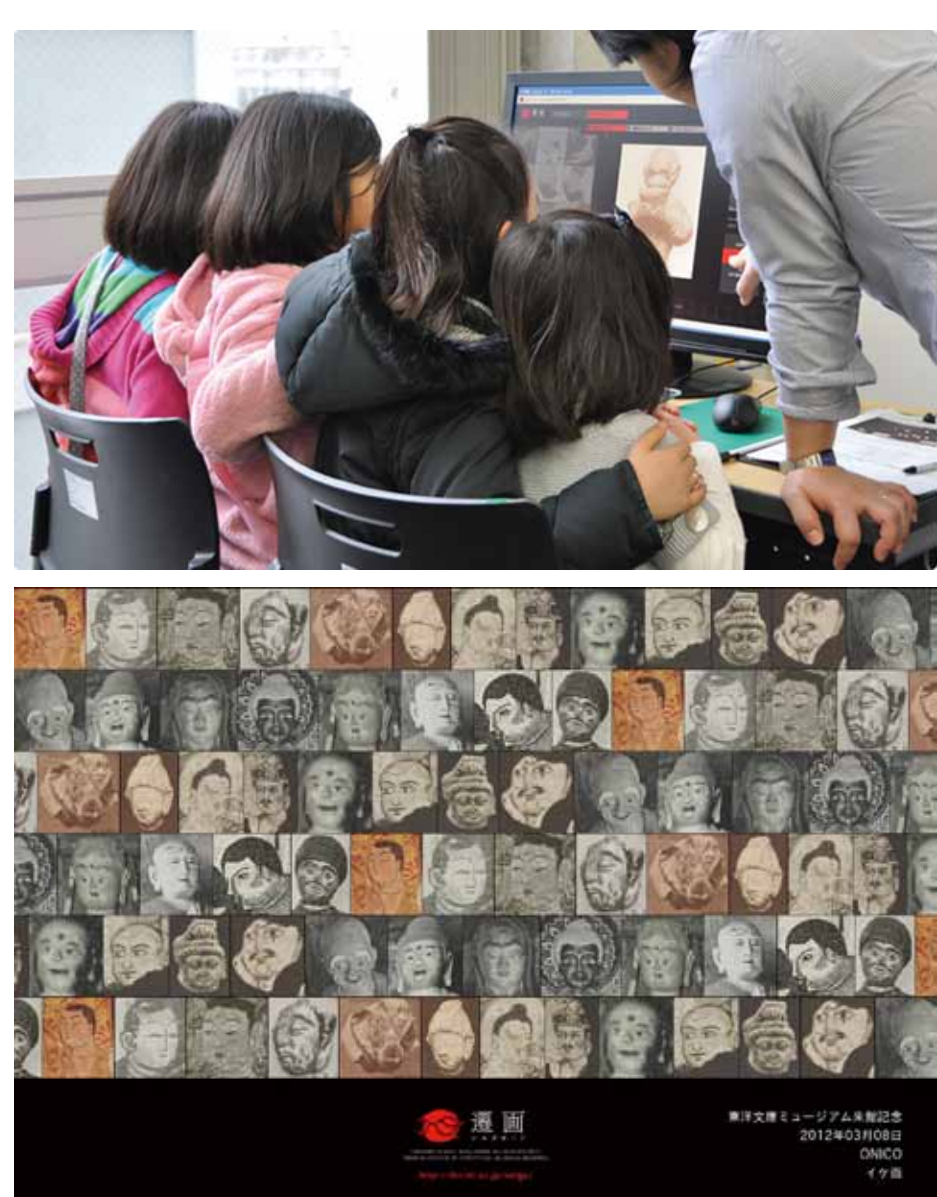
大規模データ、複雑データの批判的解釈には、デジタルツールの支援が不可欠。

事物の関連性を蓄積する研究プラットフォームへ
東洋文庫・西村陽子氏との共同研究

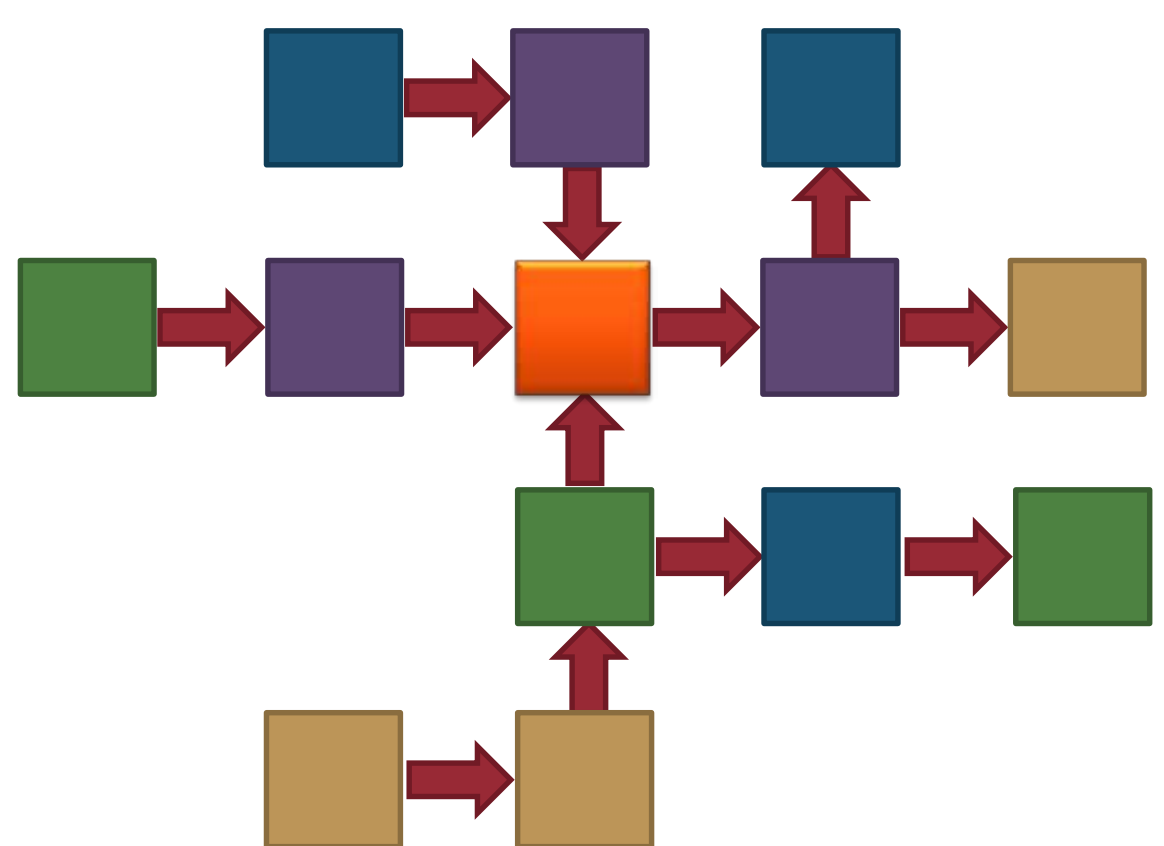
デジタル・ヒューマニティーズへの展開

開かれたミュージアム、フィールド活動、災害復興、文学作品生成…

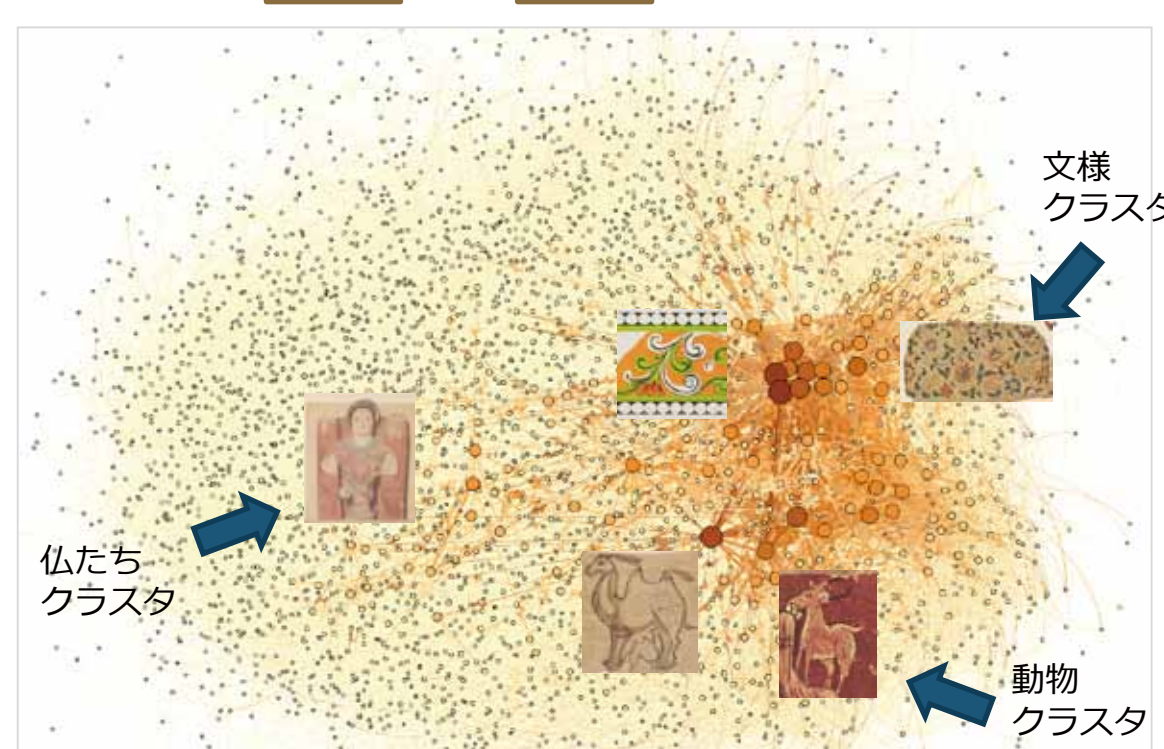
参加型ミュージアム「遷画」



マルコフ連鎖モデル



創作ツアーの構造を読み解き、自動展示生成。



モバイルアプリ「メモハン」



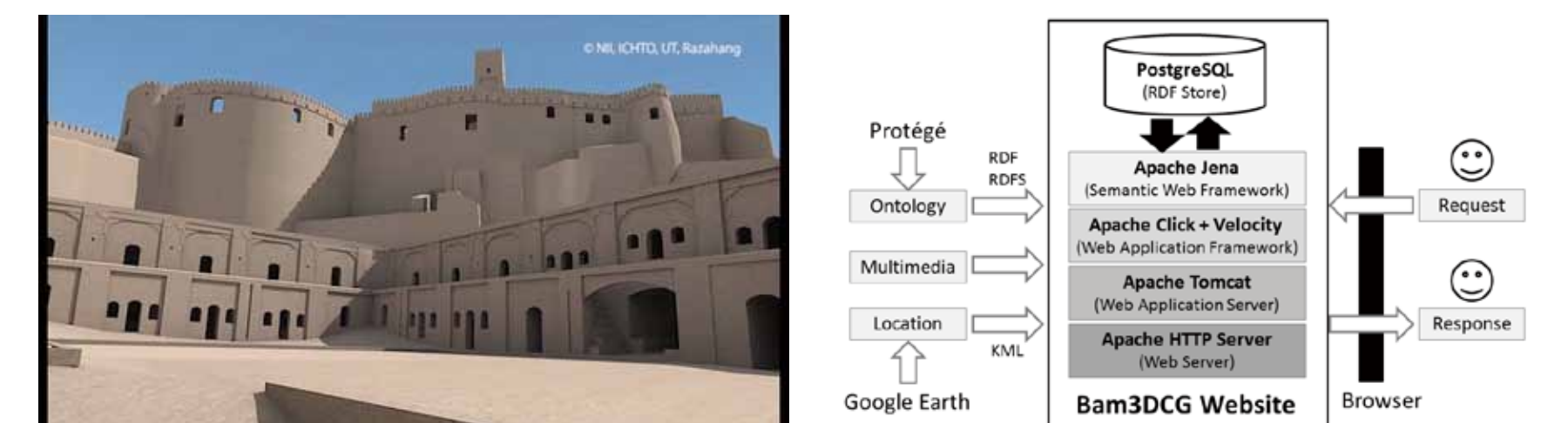
記憶の場所を探して記録するモバイルアプリ。古写真と一致する、現代の風景を探す。
京都大学・地域研との共同研究

被災遺跡の復興「バム」



2003年12月の地震で崩壊したユネスコ世界遺産「イラン・バム遺跡」

災害直後に開始した即興的アーカイビング⇒専門家による高精度復元へ。



3次元モデルで崩壊前の遺跡を復元。オントロジーを用いて復元関連データを構造化、蓄積。
イラン・テヘラン大学との共同研究